

日常着の手入れに関する一授業実践

—衣服の補修のための“まつり縫い”と“スナップ付け”の体験学習を通して—

三野たまき	生活科学教育講座
黒澤明	教育学研究科 家政教育専修
丹羽寛子	教育学研究科 家政教育専修

キーワード：衣服，補修，まつり縫い，スナップ付け，授業実践

1. はじめに

平成10年度12月に告示（15年12月一部改正）された現行の中学校家庭分野の学習指導要領の目標¹⁾は、「実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる」である。被服領域の内容においては、全生徒が学ぶ「衣服の洗濯と手入れ」の大項目があり、「衣服材料に応じた日常着の適切な手入れと補修ができること」の小項目が挙げられている。本授業実践の前段階として、学部の教育実習において、「衣服の洗濯と手入れ」の単元が取り上げられ、応用実習（4年生）では「衣服の洗濯」を、基礎実習（3年生）では「衣服の補修」について主に取り上げられた。本授業実践はこれらの授業の流れを汲み、その内の特に基礎実習で行った「衣服の補修」をどのように展開してまとめるか、生活の中でどのように具体的に生かさせるかを生徒に考えさせる段階にあった。

2. 前時までの題材の設定と授業内容

本授業実践では、「実践的・体験的な学習活動を中心」¹⁾として、日常着の手入れの補修に関する手縫い（基礎縫い）を体験学習させることにした。「生活の自立に必要な衣生活に関する基礎的な知識と技術を習得する」¹⁾ために、「まつり縫い」と「スナップ付け」^{2,3)}を取り入れた教材を考え、技術の習得のみならずどのような場合に、どうして「まつり縫い」や「スナップ付け」をするのかを生徒に考えさせた。また、「課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる」¹⁾ために、生徒が興味を持って取り組み、「仕事の楽しさや完成の喜びを体得させる」¹⁾ような教材設定が必要であった。

まつり縫いは、生活の場でスカートやズボンの裾を上げるために用いられることが多い。通常着用しているスカートやズボンの裾をほどこき縫い直すことや、スナップが付いている衣服から一度はずして付け直すことが、生徒達の興味を引く題材になるとは考えがたい。日常生活の中から直接的に補修が必要な衣服を生徒諸氏に与えるのには、少し無理があると考えた。そこで、生徒達の学校生活の中で役立つものを作製する課程で、目標を達成出来る教材を考えた。対象となる生徒は中学校1年生の男子60名、女子60名の計120名（3クラス）であった。寺内・堀内によれば、1971年の中学校の被服学習では被服製作を扱っており、中学校教科書に含まれている教材よりもより豊富な技術を生徒が修得しており、基礎縫いならば標本を用意するだけでよいと述べている⁴⁾。つまり当時は、生活における基礎縫いに対する要求度が高く、例え中学校の学習教材であっても、被服製作は当然の学習課題として要求されるべきレベルであったようだ。洋服や和服は家で作るものから購入するものになっ

表1 授業実践担当者

クラス	時間	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10	11・12
A		①	①	①	⑤	⑤	⑤
B		②	②	②	③	③	③
C		①・②	①・②	①・②	④	④	④

- ① 学部3年生(男性)
- ② 学部3年生(女性)
- ③ 大学院1年生(男性)
- ④ 大学院1年生(女性)
- ⑤ 大学教員(女性)

表2 座席表作りの授業進行状況

1・2時間目	班のテーマ決めとマスコットの計画
3・4時間目	まつり縫いの使用場面とまつり方(技能面)を学ぶ
5・6時間目	スナップの特徴とその用途, 付け方(技能面)を学ぶ
7・8時間目	役割分担を決め, 班布を飾り, 班布にスナップを付ける
9・10時間目	役割分担を決め, クラス布をまつり, クラス布にスナップを付ける
11・12時間目	仕上げと発表

た現在とは、要求されている知識や技術のレベルに格段の差があったと考える。今回授業対象者となった彼らのほとんどは、日常生活の中で針を持って作業をする経験がほとんどなく、針に糸を通すことにも、糸通しを使わなければならない生徒が多く見受けられた。

まず、本授業実践の前段階となる基礎実習を実施する際にその題材として、楽しく「基礎縫い」を学習するために「在室表」や「絵本」を布で作ることを生徒に提案した。生徒は教室で皆が使うことのできる「座席表」を布で作る希望を持った。そこで、クラス全体の座席表を作る前に、各学級で決められた4～5名で構成された班にまず分けた。班それぞれにテーマを決め、テーマに沿った個人作品(以後これをマスコットとよぶ)を計画した。生徒の考えたマスコットの意匠に曲線が多かったため、端のほつれやすい布(織物)ではその扱いが難しいので、布端がほつれないフェルト(ポリエステル100%)を用いることにした。また、マスコットを立体的に作製するために、2枚のフェルトを袋状に縫い合わせ、その中にポリエステル綿を詰めた。マスコットの背側に凸型スナップを縫いつけ、班布(18cm×18cmのフェルト生地)の表面に縫いつけた凹型スナップに止め付け、各班の座席を表すことにした。

本単元の授業実践担当者を表1に示す。第1～6時間目は基礎実習であったので、学校教育教員養成課程 生活科学教育専攻の3年生2名が担当した。第7～12時間目までは、教育学研究科 家政教育専修の1年生2名と本学部生活科学教育講座の教員1名が授業を担当した(授業担当者以外はTAとして授業に参加した)。その進行状況を表2に示す。学部3年生が担当した基礎実習では、班のテーマ決めとマスコットを作るためのまつり縫いとスナップ付けの技能面の指導が主であった。マスコットの製作状況は様々で、4時間経過してもデザインが決まらずフェルトに一度も触っていない生徒や何度もマスコットを作り直す生徒が見受けられ、生徒の進行状況に大きな差が出ていた。そのため当初計画したマスコットの背側にスナップを付けること、班布を飾るためにまつり縫いを基礎実習の研究授業で行うことが不可能となった。そこでまつり縫いとスナップ付けを全員に習得させるために、5×5cmのフェルト(以後、台紙布とよぶ)を配布し、これに凹型スナップをつけ、これを班布にまつることにした。台紙布の素材がフェルトであったので、布の周囲がほつれる心配が無く、まつり縫いの必然性が生徒に伝わりやすく、台紙布を班布に自由に縫いつけさせたクラス(B)では、小学校で学習した「かがり縫い」や「並縫い」を用いる生徒が多かった。なお、6時間経過後であっても、マスコットが完成した生徒は一人もいなかった。

3. 本時(第7～12時間目)の授業実践

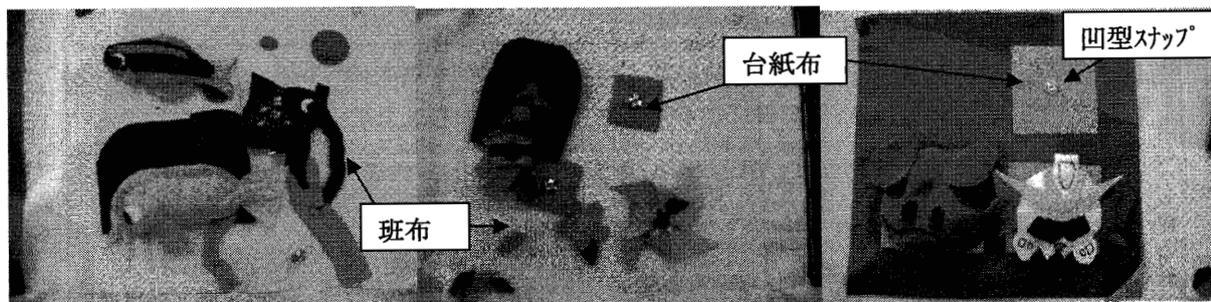


図1 班布とマスコットの見本（制作者：表1の⑤の大学教員）

3-1. 目標と題材設定

3-1-1. 目標

製作途中のマスコットを完成させ、班で協力して「班布」とクラス旗として使用できる「クラス布」を用いて座席表を完成させること、マスコットは班のテーマに沿って飾った班布にスナップで留め付け、さらにその班布をクラス布にスナップで留め付ける方法を用いて作成することを目標とした。また、まつり縫いの生活の場における必然性を考えさせることを目的とした。

3-1-2. 題材設定

班布やマスコットの完成度を高めるために、クラス旗の実物見本を提示し（図1にその一部を示す）、マスコットの作成のみならず、班布（表面は飾り、各人の台紙布をつける。裏面は班布をクラス布にスナップで付けるので、凸型スナップを4隅につける）やクラス布（耳以外の2端をまつり縫い、班布をつけるための凹型スナップを4隅につける）を班の構成員全員で協力して完成させる題材を考えた。

3-2. 授業実践

基礎実習の結果、マスコットがほぼ完成した生徒から、未だにデザインが決まらずマスコットの素材であるフェルトに触れてさえいない生徒があり、両者間に大きな差があった。そこで、第7時間目には生徒本人に進捗状況を確認させる学習カードを配布した。その学習カードの一例を図2に、指導案の展開部を表3に示す。これを用いた結果、前時（6時間終了時）までにマスコットの製作が完了した生徒は、例えばA組では10名（25%）であることがわかったが、他の2クラスも同様な進捗状況であった。最も進捗状況の遅れていたA組に、マスコ

手入れは任せて！～座席表を作ろう～

1年組 班名前

学習課題 自分と班の進捗状況を振り返り、今後の見通しをたてよう。

Ⅰ. どこまでできたかな？以下の質問に答えながら確認しよう。

マスコット

- マスコットの表布ができた
- マスコットの裏布に凸型スナップをつけた
- マスコットの表布と裏布を縫い合わせ、綿を入れて閉じた

班布

- 台紙布に凹型スナップをつけた
- 班布に小台紙布をつけた
- 班布の裏側の四隅に凸型スナップをつけた

クラス布

- クラス布の端をまつり縫いした
- クラス布に凹型スナップをつけた

まつり縫いの復習

学習課題

Ⅱ. 今日の目標

自分の目標 _____

班の目標 _____

班の“まつり縫い係”は誰ですか。名前: _____

Ⅲ. 来週の目標

自分の目標 _____

班の目標 _____

図2 進捗状況を生徒自身が自覚するための学習カード

表3 第7・8時間目の授業展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助 計画	時間	備考	
課題把握	1. 本時の学習課題を把握する	ア この布、周囲の糸を引っ張るとポロポロとれてくるな。	◇布片（織物）を生徒に配布し、これまでで触れてきたフェルトとの違いに気づかせる。	25分	布片 サンプル フラッシュカード ワークシート 教具	
		イ どんどん取れてきて、布がなくなっちゃうぞ。	・前回習ったまつり縫いを使えないか？促す。 ◇完成した座席表のサンプルを見せ、完成までの工程を考えさせる。			
		ウ 洗濯したら、どうなるのだろう。	◇クラス台紙布は織物なので、端を三つ折りにしてまつることを伝える。			
/		エ 三つ折りにしてまつり縫いするのか。	◇今後の授業の予定を伝え、学習課題を提示する。			
		オ 座席表は完成するとあんな風になるんだ。				
		カ 完成までにはやるのが厭いあるぞ。				
/		キ クラス台紙布をまつり縫いするのは大変そうだな。				
		学習課題：自分と班の進捗状況を振り返り、今後の見通しをたてよう。				
		ク 発表会まで、時間がないぞ。	◇ワークシートのチェック評を用いて、個人と班の進捗状況を振り返り、本時の目標をたてるように促す。			
/		ケ 班台紙布の飾り付けが済んでいないぞ。	◇個人と班の目標を生徒に発表させ、確認する場を設ける。			
		コ マスコットに凸型スナップがまだだ。				
		ケ マスコットは終わったから、クラス台紙布のまつり縫いを私がやるよ。				
/		学習課題：班で協力して班とクラスの台紙布とマスコットを製作しよう。				
		2. 班とクラスの台紙布、マスコットを製作する	コ クラス台紙布のまつり縫いは時間が決まっているから、時間を守って作業をしよう。	◇クラス台紙布のまつり縫いをする生徒を集め、決められた時間内に作業をするように説明する。	60分	サンプル フラッシュカード ワークシート フェルト 教具
			サ まつり縫いはどうやるんだっけ？サンプルを見て思い出そう。	◇以下の点に留意しながら机間指導する		
シ 班台紙布に凸型スナップをまだつけていない。マスコット作りの前に先につけさせてもらおう。	・ 班台紙布に凸型スナップがついていない生徒から優先してつけるように促す。 ・ フェルトをボンドで止めている生徒には縫い止めるように促す。 ・ マスコットができあがった生徒には班台紙を飾ったり、マスコットを見直して完成度をあげるよう促す。					
/		ス 私はマスコットづくりがまだ終わらない。早く終わりにして班台紙布の飾り付けを手伝おう。	自分のマスコット作りだけでなく、班で協力して班台紙布やクラス台紙布を製作することができる。			
		セ マスコットのお腹から線が出ているので、やりなおそう。				
		ソ ボンドで止めていたところははがれやすいので、縫い止めよう。				
/		タ クラス台紙布を一人で縫うのは大変そうだな。手伝いに行こう。	・ マスコットが完成し時間に余裕がある生徒には、個人台紙布を製作するように促す。			
		ハ マスコットも完成したから、個人台紙布をつくろう。				
		3. 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を把握する。	ハ 初めに立てた目標通りに作業ができたぞ。来週の確認をしよう。	◇本時の作業がどこまで進んだのか、次時の目標をワークシートに記入するように促す。	15分	ワークシート
ヒ 完成までには時間が足りないな。次の時間も班で協力して作業を進めよう。	◇本時の振り返りと次時の目標を班毎で発表する場を設ける。					
ホ 発表会が楽しみだな。みんな、どんな座席表を作ったのだろう。	◇次時の2時間で座席表を完成させることを伝える。					

ットの製作過程として3段階（第1段階は表布ができたか。第2段階は裏布に凸型スナップを付けたか。第3段階は表と裏布を袋状に縫って綿を入れて縫い上げ、マスコットが完成したか）に分けた自己評価をさせたところ、全く一段階も終了していないと回答した生徒が15名（37.5%）いた。この原因を机間巡視から観察すると、“班内で協力した話し合いができずにテーマ決めができない”が最も大きな原因で、“班のテーマから個人のマスコットのデザインに具体化できない”がそれに続いた。この点を主に個々の生徒にアドバイスしたところ、7・8時間目終了時には6名（15%）に減少した。また、当日初めて提示したクラス旗の実物見本から、クラス布を含めて、班布の進捗状況も自己評価させた。これにより、本時を含めた以後の6時間の予定を生徒自身に把握させることができた。さらに、これからの6時間で、個人のマスコットを完成させるのみならず、班で協力して完成させなくてはならない、班布やクラス布があることを自覚させた。つまり、製作に与えられた時間を、全て個人で使

用すると、班布やクラス布が完成しないことに気づかせ、班員は互いの進捗状況に鑑みて①誰が班布の表面の飾りを担当し、②裏面の凸型スナップを付けるか、③クラス布の表面の凹型スナップを付けるか。④クラス布の2端をまつるかを話し合っながら進めなくてはならない課題を与えた。

まつり縫いを学習するための教材として、A組には実演の接写ビデオ、B組にはアニメーション、C組には実物教材をそれぞれ使って生徒に学習させた。授業の最後に、作品（デザイン、縫い方、スナップ、糸の始末、総合）と基礎縫い（玉留め、玉結び、並縫い、まつり縫い、スナップ）について、5段階評価（かなり良くできた、良くできた、普通にできた、できなかった、かなりできなかった）させた。

3-3. 結果

A組の進行状況を表4に示す。各班毎のテーマとそれにあった個人テーマ、学習カードの提出状況、マスコット、班布、クラス布の完成した時間を示している。なお、学習カードの丸印は提出を、×は未提出を示す。◎は全部の項目が記入されている生徒、○は未記入の箇所がある生徒を示す。このように、授業回数が増すに連れ、学習カードが未提出の生徒や未記入の生徒数が減少した。特に作品の

表4 A組の進行状況

班	(班テーマ)	生徒	個人テーマ	備考	学習カード提出状況			マスコット			班布			クラス布	
					7-8	9-10	11-12	①	②	③	①	②	③	①	②
1班	(フーセン)	K T	フーセン	青	○	○	◎	7-8	7-8	7-8	7-8	7-8	9-10		11-12
		T K	フーセン	黒	○	◎	◎	7-8	7-8	7-8	7-8	7-8	9-10		11-12
		I R	フーセン	緑	×	○	◎	11-12	11-12	11-12	11-12	11-12	9-10		11-12
		H K	フーセン	桃	◎	×	◎	7-8	7-8	7-8	7-8	7-8	9-10	7-8	
		Y M	フーセン	橙	○	◎	◎	7-8	7-8	7-8	7-8	7-8	9-10		11-12
2班	(未知の生物)	Y M	宇宙人		○	◎	◎	7-8	9-10	9-10	7-8	7-8	11-12		11-12
		M M	物体		◎	◎	◎	7-8	9-10	9-10	7-8	7-8	11-12		11-12
		K M	生き物		×	◎	◎	9-10	9-10	9-10	9-10	9-10	11-12		11-12
		K M	きのこ		×	×	◎	11-12	11-12	11-12	9-10	9-10	11-12		11-12
		K K	包丁	ネコ	○	×	×	7-8	7-8	7-8	7-8	7-8	11-12	7-8	
3班	(文房具)	K Y	鉛筆		◎	◎	◎	7-8	7-8	7-8	7-8	7-8	9-10	7-8	
		M K	消しゴム		◎	×	◎	7-8	7-8	7-8	7-8	7-8	9-10		11-12
		F H	ノート		◎	◎	◎	7-8	7-8	7-8	7-8	7-8	9-10		11-12
		H K	ハサミ		◎	◎	◎	9-10	7-8	9-10	7-8	7-8	9-10		11-12
		Y N	セロハンテープ		◎	◎	◎	7-8	7-8	9-10	9-10	9-10	9-10		11-12
4班	(スシ)	S K	ホタテ		◎	○	◎	7-8	7-8	7-8	9-10	9-10	9-10		11-12
		N N	マグロ		◎	◎	◎	7-8	7-8	7-8	9-10	9-10	9-10		11-12
		K A	サーモン		×	◎	◎	11-12	11-12	11-12	11-12	11-12	9-10	7-8	
		G K	えび		×	×	◎	11-12	11-12	11-12	11-12	11-12	9-10		11-12
		J M	たまご		◎	◎	◎	11-12	7-8	11-12	7-8	7-8	9-10		11-12
5班	(フルーツ)	T T	ぶどう		○	○	◎	11-12	11-12	11-12	9-10		11-12		9-10
		S R	りんご		○	◎	◎	7-8	11-12	11-12	9-10	9-10	9-10		9-10
		Y T	みかん		○	◎	◎	9-10	7-8	9-10	7-8	9-10	11-12		11-12
		Y A	さくらんぼ		◎	◎	◎	7-8	9-10	9-10	7-8	7-8	11-12		11-12
		M H	いちご		◎	◎	◎	7-8	7-8	9-10	7-8	7-8	11-12	7-8	
6班	(お菓子)	T S	ドーナツ		◎	◎	◎		9-10		9-10	7-8	11-12		9-10
		M R	大福		◎	◎	×	9-10	7-8	9-10	7-8	11-12	11-12	7-8	
		M Y	クッキー	ツツヤ	◎	×	◎	11-12	11-12	11-12	7-8	7-8	11-12		9-10
		K M	クッキー	星	◎	◎	◎	9-10	11-12	11-12	7-8	7-8	11-12		9-10
		K R	クッキー	いちご	◎	◎	◎	9-10	11-12	11-12	7-8	7-8	11-12		9-10
7班	(四季)	M M	スノボ		×	◎	◎	9-10	9-10	9-10	9-10	9-10	11-12	11-12	
		S T	長い物体		×	◎	◎	9-10	9-10	9-10	9-10	9-10	9-10		9-10
		T K	すいか		×	◎	◎	9-10	9-10	9-10	9-10	9-10	11-12		9-10
		T S	けしごむ		×	◎	◎	9-10	9-10	11-12	9-10	9-10	11-12		9-10
		Y M	落ち葉		×	◎	◎	7-8	7-8	7-8	7-8	7-8	11-12		9-10
8班	(四季)	E N	エニフォーム	すいか	◎	◎	◎	11-12	7-8	11-12	7-8	9-10	9-10		9-10
		W A	きのこ	桜	◎	◎	◎	9-10	11-12	9-10	7-8	9-10	9-10		9-10
		Y S	べんぎん	クリスマス	◎	◎	◎	7-8	7-8	9-10	7-8	9-10	9-10	11-12	
		K S	落ち葉		◎	◎	◎	7-8	11-12	11-12	9-10	9-10	9-10		11-12
		K S	雪だるま		○	○	◎	7-8	7-8	9-10	9-10	9-10	9-10		11-12

左表のマスコット、班布、クラス布のチェック項目を示す。

【マスコット】

- ① 表ができた。
- ② 裏にスナップがついた。
- ③ 表裏を袋に縫い、綿をつめ、縫って完成した。

【班布】

- ① 台紙布に凹型スナップをつけた。
- ② 台紙布を班布に付けた。
- ③ 班布の裏面に凸型スナップを付けた。

【クラス布】

- ① 端をまつった。
- ② 凹型スナップを付けた。

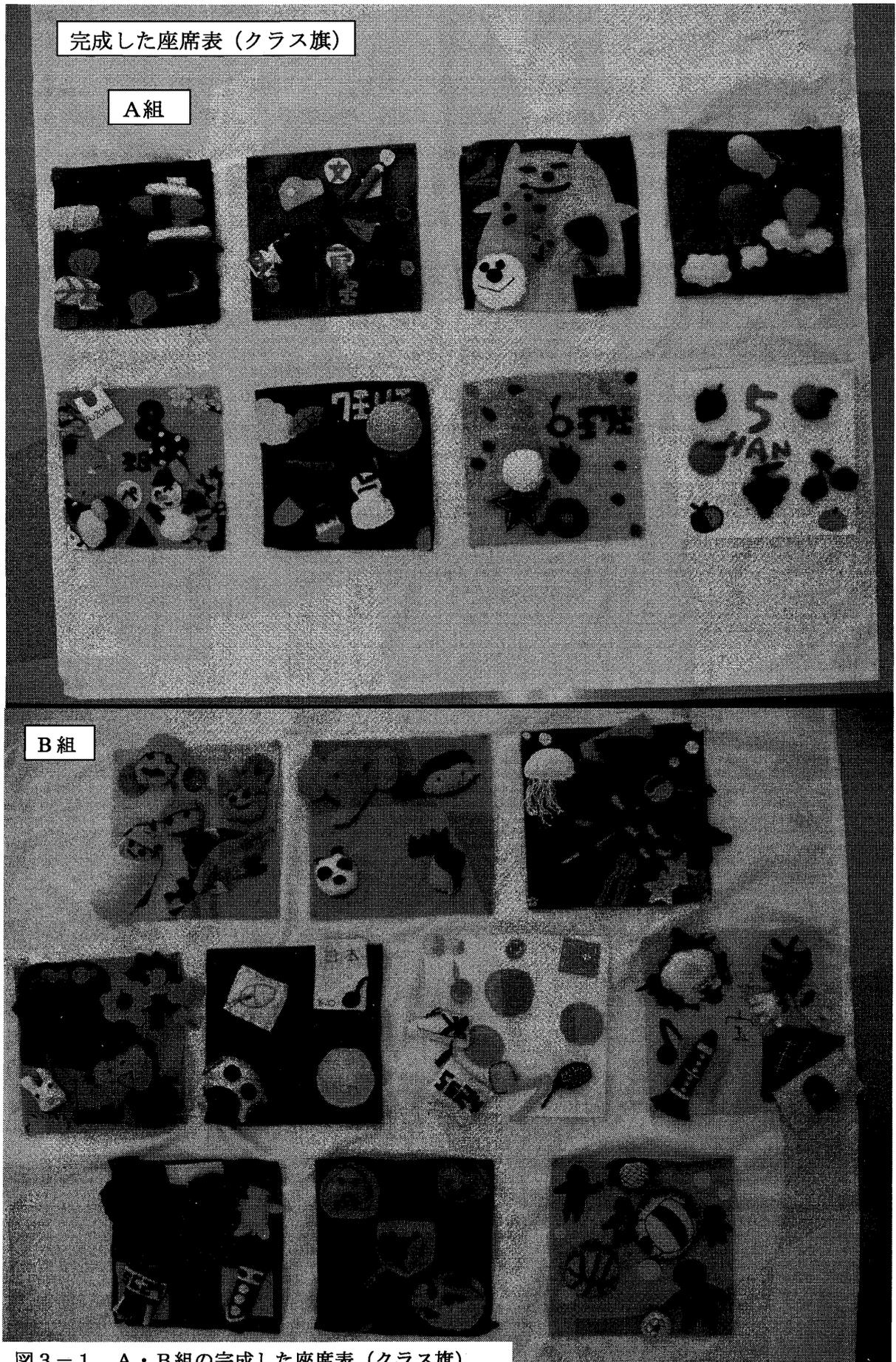


図3-1 A・B組の完成した座席表 (クラス旗)

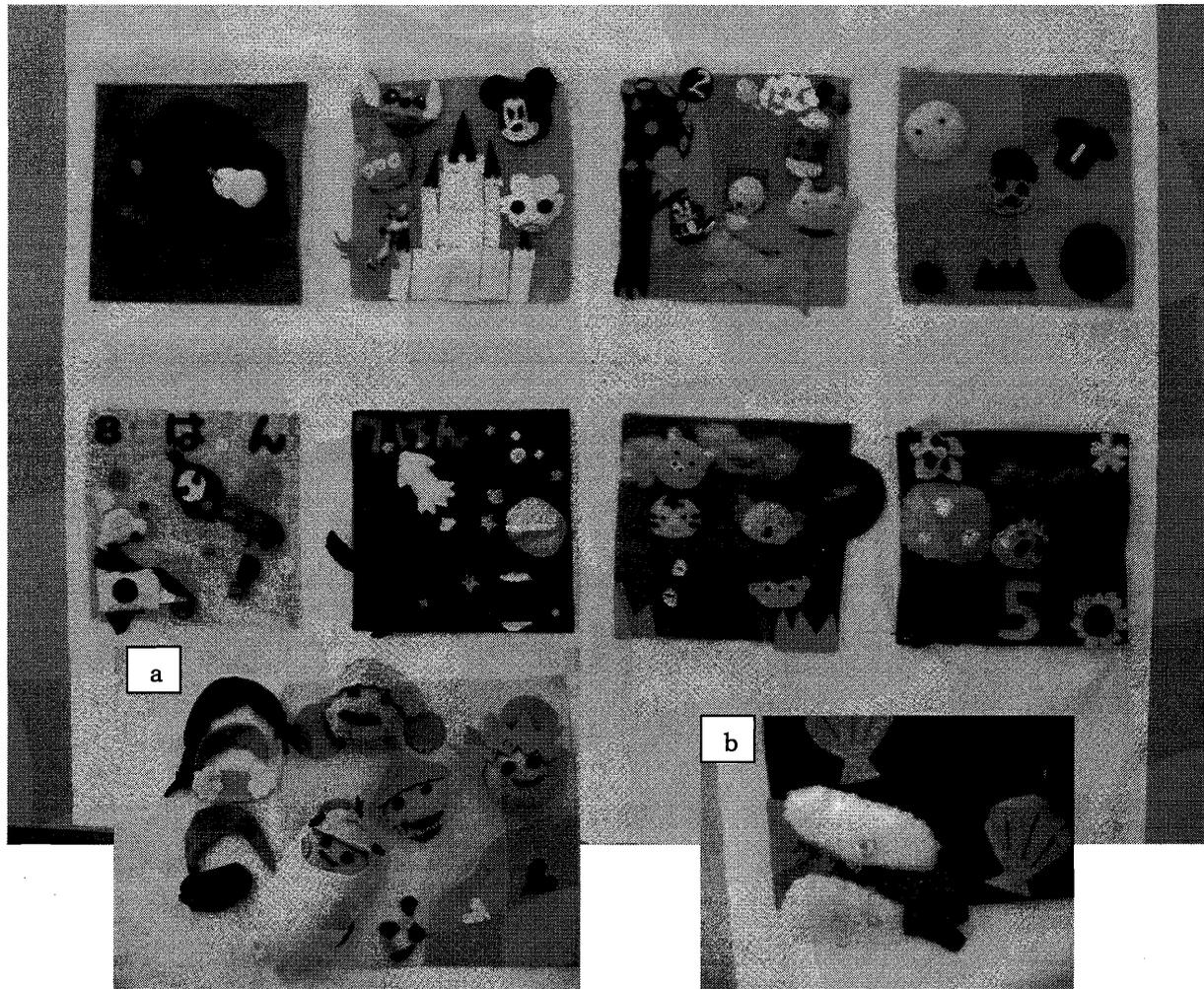


図3-2 C組の完成した座席表(クラス旗)とスナップの工夫

発表をした回の11時間目の初めに、表4の11・12時間目の結果が記入されていない表を生徒に提示し、12時間目の後半には作品の発表会をすることを伝えた。すると、この11時間目後半から12時間目前半にかけての時間内で、全ての作品が完成した。完成作品を他のクラスのものとともに図3に示す。特に図3-2に示した図a・bはスナップを上手に工夫して活用した作品に仕上がった。図a(B組3班)は、班布の右手前の青色の飾りがポケットになっており、左縦一列に並べたパーツが凸型スナップを付けたカツラになっていた。自分のマスコットに好みのカツラを付け替えることができ

表5 作品と基礎縫いに関する自己評価(スパマンの順位相関)

	男女	デザイン	縫い方	スナップ	糸の始末	総合	玉留め	玉結び	並縫い	まつり
男女										
デザイン	0.014									
縫い方	0.010	0.383 ***								
スナップ	-0.025	0.227 *	0.547 ***							
糸の始末	0.129	0.338 ***	0.509 ***	0.385 ***						
総合	0.085	0.560 ***	0.556 ***	0.431 ***	0.563 ***					
玉留め	0.082	0.120	0.333 ***	0.430 ***	0.276 **	0.346 ***				
玉結び	0.122	0.224 *	0.303 **	0.324 ***	0.196 *	0.348 ***	0.721 ***			
並縫い	0.156	0.275 **	0.348 ***	0.122 ***	0.178	0.287 **	0.274 **	0.365 ***		
まつり	0.037	0.357 ***	0.495 ***	0.360 ***	0.450 ***	0.448 ***	0.112 ***	0.159	0.262 **	
スナップ	0.024	0.244 *	0.521 ***	0.662 ***	0.468 ***	0.502 ***	0.465 ***	0.327 ***	0.196 *	0.433 ***

* : $\alpha \leq 0.05$, ** : $\alpha \leq 0.01$, *** : $\alpha \leq 0.001$

表6 「総合」と「スナップ」の重回帰分析

「総合」の重回帰式											
変数名	偏回帰係数	標準偏回帰係数	F 値	T 値	P 値	判定	標準誤差	偏相関	単相関	下限値	上限値
デザイン	0.284	0.344	23.063	4.802	0.0000	**	0.059	0.419	0.560	0.167	0.402
縫い方	0.178	0.195	5.451	2.335	0.0214	*	0.076	0.219	0.566	0.027	0.320
糸の始末	0.199	0.253	10.241	3.200	0.0018	**	0.062	0.294	0.563	0.076	0.323
スナップ	0.203	0.202	6.608	2.571	0.0115	*	0.079	0.240	0.509	0.046	0.359
定数項	0.470		2.228	1.493	0.1384		0.315			-0.154	1.093

「総合」の精度											
決定係数	0.549										
修正決定係数	0.532										
重相関係数	0.741										
修正済重相関係数	0.729										
ゲーツトツ比	2.048										
赤池のAIC	222.637										

「総合」の分散分析表							**: $\alpha \leq 0.01$ *: $\alpha \leq 0.05$				
要因	偏差平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定					
回帰変動	51.863	4	12.966	32.815	0.0000	**					
誤差変動	42.673	108	0.395								
全体変動	94.535	112									

「スナップ」の重回帰式											
変数名	偏回帰係数	標準偏回帰係数	F 値	T 値	P 値	判定	標準誤差	偏相関	単相関	下限値	上限値
スナップ	0.413	0.443	32.098	5.666	0.0000	**	0.073	0.477	0.662	0.269	0.558
玉留め	0.186	0.198	7.226	2.688	0.0083	**	0.069	0.249	0.465	0.049	0.324
まつり	0.157	0.178	5.696	2.387	0.0187	*	0.066	0.223	0.433	0.027	0.288
総合	0.164	0.163	4.339	2.083	0.0396	*	0.079	0.196	0.502	0.008	0.320
定数項	0.544		2.630	1.622	0.1077		0.335			-0.121	1.208

「スナップ」の精度											
決定係数	0.544										
修正決定係数	0.528										
重相関係数	0.738										
修正済重相関係数	0.726										
ゲーツトツ比	1.998										
赤池のAIC	224.922										

「スナップ」の分散分析表							**: $\alpha \leq 0.01$ *: $\alpha \leq 0.05$				
要因	偏差平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定					
回帰変動	51.652	4	12.913	32.574	0.0000	**					
誤差変動	43.210	109	0.396								
全体変動	94.862	113									

るように工夫されていた。また図 b (A組4班) は、寿司のネタを付け替えることにより班内の座席配置を自由に換えることができるように工夫されていた。どの作品も創意工夫したそれに仕上がった。

作品と基礎縫いについて自己評価させた時の生徒 115 名 (回収率 95.8%) の各項目間のスピアマンの順位相関係数を表 5 に示す。男女の性別と有意な相関関係にある項目は一つもなく、本題材は性差が見られないことがわかった。これは三野らが以前報告した日常生活における自立意識調査⁵⁾の結果からも言えることであり、衣生活学習に関して性差がないことを表していた。その他、「デザイン」と「玉留め」、「並縫い」と「糸の始末」・「スナップ」、「まつり縫い」と「玉留め」・「玉結び」の各項目間以外の組み合わせの間には、有意な正の相関 ($\alpha \leq 0.05$ から $\alpha \leq 0.01$) 関係があることがわかった。また、「総合」と基礎縫いの「スナップ」の両項目は、どの項目とも正の相関関係があった。そこで、便宜上ではあるが、この「総合」と基礎縫いの「スナップ」の項目を目的変数、その他を説明変数としたときの重回帰分析⁶⁾を行い、総合やスナップ付けの自己評価が「良い」と判断する因子が何であったのかを検討することにした。

「総合」と「スナップ」の項目を変数増加法によって変数選択し、F 値が 2 以上の説明変数を用いて重回帰式を求めた (表 6 参照)。すると、「総合」は「デザイン」、基礎縫いにおける「スナップ」、「糸の始末」、「縫い方」の 4 説明変数の順に、寄与率の高い有意な重回帰式が得られた。これに対し、基礎縫いの「スナップ」は作品における「スナップ」の寄与率が大きいものの、「玉留め」、「まつり縫い」、「総合」の順に寄与率の高い有意な重回帰式 ($\alpha \leq 0.01$) が得られた。

3-4. 考察

本題材として取り上げたマスコット、班布、クラス布で製作した座席表は、基礎縫いを理解するための学習教材としてどのような効果があったのであろうか。彼らが作品に対して行った総合評価と基礎縫いとしてのスナップ付けに対する評価は、表 4 からわかるように、総合的に良くできたと評価した生徒程、どの項目も良くできたと評価していた。また、便宜上 5 段階評価の平均値を求めたところ、

「総合」評価は 3.8 ± 0.9 (mean \pm SD) で、普通～良くできたと評価したことがわかった。また、小学校で学習した玉留め (4.0 ± 1.0)、玉結び (4.0 ± 1.0)、並縫い (4.4 ± 0.8) に比べ、まつり縫い (3.7 ± 1.0)、縫い方 (3.6 ± 1.0)、糸の始末 (3.5 ± 1.2)、デザイン (3.9 ± 1.1) は生徒の多くが「良くできた」までの意識に到達しなかったことがわかった。なお、基礎縫いとして取り上げたスナップ付けと作品中に取り上げたスナップ付けはどちらも 4.1 ± 0.9 と 4.0 ± 1.0 で、良くできたと判定していた。このことから、「まつり縫い」を除いた基礎縫いに関しては、小学校や中学校で習った技能として、生徒本人が満足できる仕上がりとなっていることがわかった。しかし、これらを適宜用いながら創作していく活動では、デザインや糸の始末、縫い方などの複合した技能や想像力、創意工夫が関係するので、この点に関しては満足できる仕上がりにはならなかったことがわかった。すなわち、まつり縫いを除き、スナップ付けなどは基礎縫いとして個別に扱う限りでは満足できる仕上がりとなるが、作品の一部としてスナップ付けを扱う場合、生徒達には基礎縫いとしてのスナップ付けよりも一歩進んだ創意工夫が必要となるので、一段階上の体験学習になるようである。ただし、マスコットなどの作品の中でいきなりスナップ付けを扱うのではなく、部分縫いを何度か体験してから作品へ移る必要があることがわかった。

重回帰分析の結果(表6参照)から、作品の総合評価はデザイン、糸の始末、基礎縫いにおけるスナップ付け、縫い方によって影響を受け、デザインの寄与率が最も高かった。ただし、この4因子の寄与率は合わせても約5割強であったので、今回のアンケートによって生徒の状況の全てを反映させることができたとは考えがたい。その原因の多くは、本授業実践では班の話し合いの元に決定して進める活動が多かったことにあると考える。今回のアンケートでは班の協力についての質問項目が欠如していたことが、寄与率を高めることができなかった原因であると思われる。また、基礎縫いとして扱った「まつり縫い」(3.7 ± 1.0)は、学習条件として不十分であったようである。A組は基礎縫いとして上記項目以外に「半返し縫い」と「本返し縫い」についてもアンケートを実施した。すると、「まつり縫い」に対する寄与率が高いのは「半返し縫い」と「糸の始末」の項目で、両者の偏回帰係数はそれぞれ 0.953 ($\alpha \leq 0.01$) と 0.271 ($\alpha \leq 0.05$) となり、有意であった。これは他の基礎縫いに比べ、まつり縫いが半返し縫いに類似していると生徒が判断している可能性が高いことを表している。このように、半返し縫いができると評価した生徒ほど、まつり縫いができると評価した。つまり、まつり縫いを学習する前に、小学校で学習した基礎縫いを復習し、半返し縫いや糸の後始末などを学習してから、まつり縫いの学習に入る方がよいことが示唆された。

A組の7時間目の授業で四方を断ち切った綿ブロードを生徒に配布し、布の四方を生徒に触らせてどのようなことがわかったかと質問すると、「糸の端がポロポロ取れてくる(KS)」と答えた。そこで、このままこの布を洗濯機で洗濯をしたらどうなるかと聞くと、「ぼろぼろになる(MR)」と答えた。ではこの布をどうしたら洗濯できるようになるかを考えさせたところ、「端を折ればよい(KK)」と答えた。「一回端を折ってそのまま洗濯機に入れたらどうなるか」と尋ねると「まだ、ぼろぼろする(TS)」と答えた。次いでどうすればよいと聞くと「もう一回折ればよい(MR)」と答えた。そこで「そうだね。二回折って糸で留めれば、洗濯機で洗っても布の端は取れてこないね。2回折って3枚布が重なっているからこの織り方を三つ折りと言い、この時の布をみんなが習ったまつり縫いで留めると大丈夫だね」と生徒に伝えた。このように生徒は織布がほつれることに気づいたので、まつり縫いの学習には織布を用いるべきと考える。今回マスコットのデザインの多くが曲線から構成されていたので、織布の代わりにフェルトを用いた。フェルトは端がほつれないので、まつり縫いをする必然性が生徒自らの中からは見つけにくかった。ここをかがり縫いや並縫い、半返し縫いや本返し縫いで

縫わずにまつり縫いする必然性に対し疑問が残ったのであろう。そのために、本学習の総合評価にまつり縫いが寄与する割合が低かったと考える。

学習カードを提出していない生徒（5名）、作品の総合に対する自己評価を「できなかった」と判定した生徒が9名の計14名で、7.8%の生徒が本授業実践へ意欲的に参加できなかった。常日頃からの生徒への働きかけや家庭生活に対する動機付けを含め、これらの生徒数が減少するような授業を実践すべき努力が必要である。今後特にまつり縫いを生活の中でどのように生かすかを生徒諸氏に考えさせる授業を充実させる必要がある。

4. まとめ

本授業実践では、基礎実習で扱った「基礎縫い」の学習を発展させ、クラス旗を兼ねた座席表にまとめた。補修に用いる基礎縫いを楽しく学習するにはマスコットはよい題材であったと考える。しかし本題材は「まつり縫い」の学習には不向きであった。また、工夫や創作性が必要とされるマスコットなどを製作する上では、基礎縫いを部分的に学習して技能や自信を充実させた上で、マスコットなどの作品へ進むべきことがわかった。小学校で学習した「半返し縫い」ができると評価した生徒ほど「まつり縫い」が出来ると評価したので、「まつり縫い」の学習に先だって、まず「半返し縫い」の復習をすべきことがわかった。

謝辞

本授業実践に際し、附属長野中学校の伊澤順子教諭をはじめとする諸先生方、基礎実習で前時までの授業を担当してくれた本学部の小田陽子さん、後藤タケル君、また附属長野中学校の生徒諸氏にご協力頂いた。この場を借り深謝いたします。

5. 参考文献

- 1) 文部科学省ホームページ（2006, 12, 12）新学習指導要領, http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301.htm
- 2) 石田晴久ら（2003）新しい技術・家庭 家庭分野, 東京書籍, pp.86-87, 105, 東京
- 3) 中間美智子ら（2006）技術・家庭 家庭分野, 開隆堂, p.107, 東京
- 4) 寺内アヤ子, 堀内紀久子（1971）短期大学における被服製作のあり方（第1報）: 中学時代における被服製作の実態, 高知学園短期大学紀要, 2, 41-51
- 5) 三野たまき, 霜田里美, 塩入純子, 大熊恵美子（2005）日常生活における自立意識調査, 信州大学教育学部紀要, 114, 25-35
- 6) 柳井久江（2005）4STEPS エクセル統計, オーエムエス出版, pp.171-199, 東京

（2006年12月13日 受理）